



共通①：隣接園（特に、今後収穫期を迎える作物）に飛散しないよう十分注意する。

共通②：散布後は、タンク内や散布器具の洗浄を十分に行ない、薬液が残らないようにする。

りんご 9月下旬の散布：前回より10～12日後

散布時期：9月18日～9月27日

*ふじ等、最終散布

散布日： 月 日

散布薬剤： 水

100ℓ

散布量： ℓ

展着剤（ササラ）

50ml 【代替】ハイテンパワー10,000倍

ストライド顆粒水和剤

66g（前日、3回）

対象病害虫：炭そ病、斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす班病、黒星病

散布量：10ℓ当たり 600ℓ

注意事項

- ① ふじ等、晩生種最終防除。
- ② 【薬害注意】 ストライド顆粒水和剤は、高温時に散布すると薬害が生じる恐れがある。
- ③ 【軟化防止対策】 カルタス 1200倍を加用する。

落果防止剤の使用について

- ストップール液剤は収穫開始予定の15～25日前に1回散布が基本です。また、極度の土壌乾燥下では効果は低減します。
- ストップール液剤は単用散布で展着剤を加用しない。また、薬害防止のため他品目には飛散しないように注意してください。

品種名	落果防止	収穫開始予想	備考
千秋	9月初旬 ストップール液剤1,000倍	9/15～	果肉先行注意。
秋映	9/10～15頃 ストップール液剤1,000倍	10/1～	着色先行型。熟度重視の収穫徹底。
ジョナゴールド	9/10～15頃 ストップール液剤1,000倍	10/5～	果肉先行注意。
世界一	9/10～15頃 ストップール液剤1,000倍	10/5～	〃
紅玉	9/5～10頃 ストップール液剤1,000倍	9/28～	早期酸抜け注意。
シナノゴールド	9/20～30頃 ストップール液剤1,000倍	10/15～	平年落果の少ない園地の散布は不要。

裏面もご覧ください。

➡ 秋映の着色管理（葉摘み）について

①時期

- ・1回目：9月10日頃に果実に密着している果そう葉を中心とした軽い葉摘みを行う。
 - ・2回目：気温の低下と着色の様子を見ながら玉回しと合わせて実施する。
- ②日焼け防止のため、果実温の高い日中に作業を行い、早朝や夕方、果実温の低い時間帯には行わない。
- ③徒長枝切りや枝つり、支柱立てを早めに行い樹冠内部への光の導入を図る。
- ④一度に強い葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意する。
- ⑤早い段階で日焼け果が発生しているため、直射日光の当たる部分の葉摘み、玉回しは実施しない。

➡ シナノスイートの心カビ果の除去

- ◆ 時期：9/15頃までに。 *すでに心カビ果の発生が散見されています。本格的な着色が始まる前に実施ください。
- ◆ 特徴：①異常に地色が抜けた果実 ②早期着色果
- ◆ 収穫開始予想：10/5頃（南部） 10/10頃（北部） *果肉先行見込みです。着色上昇次第で前後します。

➡ 半無袋（ワックス袋）ふじの除袋について

- ◆ 時期：9/15～20頃
- ◆ 極端な高温（日中30℃以上）が続く場合は、上記日程より遅らせてください。

➡ りんご葉面散布資材の使用例

- 対象：シナノスイート・ふじ等
- 下記資材は全て定期散布に混用可能です。詳しくは担当技術員までお問い合わせください。

商品名	使用目的	倍率	使用時期（定期散布混用）	単価／規格	農薬混用
彩色甘味 (おすすめ!)	着色促進 糖度向上	1,000	9月上旬～10月初旬 (収穫予定40日前と20日前の2回散布が効果的)	2,900円/500g	可
モーニングエース	着色促進 品質向上	500	9月上旬～10月初旬 (収穫予定30日前と15日前の2回散布が効果的)	4,400円/500ml	可
ビビットレッド	着色促進 品質向上	500	9月上旬～10月初旬 (収穫予定30日前と15日前の2回散布が効果的)	1,430円/1.2kg	可
葉友	着色促進 花芽充実	2,000	9月上旬～10月初旬 (収穫予定2カ月前から3回散布が効果的)	4,110円/1リットル	可
メリット赤	着色促進 樹勢調節	300	9月上旬～10月初旬 (収穫予定2カ月前から3回散布が効果的)	7,940円/6kg	可

◆ 使用例

- ① 彩色甘味：9月下旬・10月初旬の2回連続で定期防除に混用散布 ⇒ ふじ対象
- ② モーニングエース：9月中旬・10月初旬（シルバー敷き前）に500倍で2回連続散布 ⇒ ふじ対象

果樹特報 No10 発行予定：11/17

- ◆ 特別散布（石灰硫黄合剤）
- ◆ 野そ対策他